

High School Life in the United States

Hello, everyone. For today's Getto Kunwa, I would like to talk about my life when I was around your age and went to high school in the United States.

本日の月頭訓話では、私が皆さんと同じくらいの年齢の頃に、アメリカに留学したときのことをお話したいと思います。

私が高校 1 年生のとき、皆さんと変わらない普通の高校生でした。そんな高校 1 年生のある日、母に、「あなたは高校 2 年生になったら、アメリカに行きなさい」と言われました。今考えると、先見の目のある母だとは思いますが、当時の私には、理解ができませんでした。

当時、私は、日本での高校生活を楽しんでいましたし、友達と離れたくありませんでした。英語も学校で学んでいただけで、英会話はまったくできませんでした。

しかし、高校 2 年生になって、そのときはやってきました。私は、高校を休学し、アメリカに行く決心をしました。よくわからないけど、行ってみたら、きっと何か大切なものに出会えるのではないかな。そんな気持ちだったと思います。

そして、アメリカのカリフォルニア州にある、Fountain Valley というところに行くことになりました。私は、17 歳でした。

皆さん、カリフォルニア州はどこにあるかわかりますか？アメリカは大きいです。カリフォルニア州はアメリカの西側にある長細い州で、大きさはちょうど日本と同じくらいです。北には、皆さんも聞いたことがあると思いますが、サンフランシスコという都市があり、南には、ロサンゼルスという都市があります。

私が行った、Fountain Valley という都市は、ロサンゼルスから南に、車で 1 時間程度行ったところにあります。皆さん大好きなディズニーランドやユニバーサルスタジオも近くにありました。私は、そこで、アメリカ人夫妻の家に滞在し、公立高校に通うことになりました。

私が初めて、アメリカの高校に行ったときの印象は、とても衝撃的でした。カリフォルニア州では 16 才から車の免許が取れるので、車で通学する生徒がいたり、スケートボードで通う生徒もいました。また、もちろん制服はなくて、私服で、女子はみんなメイクするのが当たり前で、とても大人びて見えました。そして、授業中にもかかわらず、生徒がガムを噛んでいても誰も気にしていませんでした。

アメリカでは、教室に先生がいて、生徒が各教科ごとに動くのですが、授業が終わる間際に先生が話していても、授業終わりにベルが鳴ったら、みんな先生を無視して、すぐに移動していました。いろんなことが、日本と違いすぎていて、私は、本当にカルチャーショックを受けました。

初め、私は英語が話せませんでしたので、なかなかアメリカ人の友達もできなくて、いろいろ苦労はしましたし、ホームシックにもなりました。当時は、今のようにインターネットもメールもなく、コミュニケーションの手段は電話しかありませんでしたが、国際電話料金も高いので、両親や友達には、ひたすら手紙を書いていました。手紙を受け取ったときや、たまに日本からお菓子の小包が届いたときは、本当にうれしかったです。

それから、しばらくたつと、だんだん周りで言っていることがわかってきて、自分でも話せるようになってきました。アメリカ人の友達もできてくると、アメリカでの生活が楽しくなってきました。だんだん環境に慣れてくると、アメリカの良さにも気付き始めました。

例えば、アメリカでは、個人の意思や主体性を尊重します。日本では、周りと同じように振る舞うことが無難であったり、「出る杭は打たれる」などとよく言われますが、アメリカでは、自分が他人と違うことに価値があり、自分の意見をしっかりと持つことが重要視されます。

常に、周りに流されるのではなく、自分自身の考えをしっかりと持つということはとても大切なことですが、それだけ自分が常に考えておかなければならないので、大変なことでもあります。

今振り返ってみると、若いうちにアメリカに行ったことで、貴重な経験をさせてもらったな、と本当に思います。突然身一つでアメリカに行き両親も、友達もいない、文化も言語も違う環境で、自分がそれまでに培ってきたもの、すべてを失ったかのように、ゼロから自分で作り上げなければならないという、貴重な経験をさせてもらいました。でも、なんとか自分で片言でも英語が話せるようになり、友達ができ、異国で暮らすのが楽しくなるまで、自分の人生を切り拓けたことは、自分の自信につながったと思います。

それから、アメリカに住んでみてわかったことは、いかに日本が小さいかということでした。アメリカ人にとっては、日本は遠く離れた国であり、日本が島国であることさえ知らない、中国と日本の違いもわからない、ということがよくありました。「なるほど、世界から見ると、日本はこうなんだな」ということがわかりましたし、だからこそ、自分の国、日本について、自分自身がもっと知らなければならない、そして、アメリカ人に伝えなければならない、という強い気持ちが芽生えました。

皆さんは、今 15 歳から 18 歳。私は、皆さんの可能性は無限大だと思っています。将来は、このまま地元の学校や会社に行こうと思っている人も多いと思います。それはとても素晴らしいことです。ですが、地元の進路に進むにしても、もし機会があれば、なるべく早いうちに、旅行でもいいので、海外に行ってみるということを、私は強くお勧めします。

なぜならば、異国の地から、日本を眺めてみるという経験は貴重なもので、皆さんが生きる未来は、異なる文化や人種を超えて、世界みんなが助け合うことが必要な時代になるからです。そして、それは、私がどんなに私の経験を説明したとしても、皆さんが、どんな素晴らしい本を読んだとしても、実際にその場に自分の身を置いて、感じて、経験すること、それ以上のものはないからです。

最後に、私から皆さんへ、私が大切にしている言葉を送ります。それは、「思考は運命を変える」ということです。思考、つまり考えていることは、言葉になっていきます。そして、言葉は行動につながります。行動を続けると、習慣となり、習慣を続けると人格となり、そして、人格は運命となります。これは、「自分の思考が、結果的に運命を変える」、「自分が考えるものになる」ということです。ですから、毎日、何を考えるのが重要であり、運命を動かすのは、あなた自身です。

Watch your thoughts, for they become words.
Watch your words, for they become actions.
Watch your actions, for they become habits.
Watch your habits, for they become your character.
And watch your character, for it becomes your destiny.
What we think, we become.

Thank you all for listening.